



新函館北斗・札幌間で初貫通となった昆布トンネルの貫通点

新幹線をつくる

Vol.2

鉄道・運輸機構は、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の建設主体として、北海道新幹線の整備事業を進めています。



万歳三唱をして貫通を喜ぶ関係者



「YouTube JRTTチャンネル」
北海道新幹線・昆布トンネル
(宮田工区)掘削の様子(※1)

二 ○三〇年度末の完成を目指している北海道新幹線の新函館北斗・札幌間に、線路延長約二一二キロメートルの約八〇パーセントがトンネル区間になつております。現在、JRTTによるトンネル



三月十八日には、ニセコ町に位置する「昆布トンネル（延長約一〇・四キロメートル）」のうち、南側の宮田工区が昨年三月に掘削を完了した桂台工区へと到達し、トンネル貫通の運びとなりました。

固い地盤を持つ昆布トンネルでは、その大部分で装填した火薬を使用して爆破し、岩盤を碎く発破工法を採用。発破の瞬間、静かな坑内に響き渡る「ドドドドーン」という音によって、爆発の威力が伝わってきます。

碎かれた岩盤は、安全面に十分に気を配りながらベルトコンベアを使ってトンネルの外へと運び出します。次にトンネルが崩れないよう鋼材によ

るアーチ状の支えを配置し、さらに地山にボルトを打ち込んで安定を図ります。大がかりな工事だけに、一日に掘削できる距離はわずか数メートル。トンネルはこうした地道な作業を繰り返し、つくりしていくのです(※2)。

昆布トンネルは、二〇一四年に掘削を開始してから約六年を経て、宮田工区と桂台工区がつながり、新函館北斗・札幌間のトンネルで初めての貫通となりました。そこに携わった関係者は万歳三唱で貫通の喜びとこれまでの労を分かち合いました。

なお、同じく三月に二股トンネルも貫通し、残り十五本のトンネルも掘削を進めています。

の掘削工事が進んでいます。

掘削現場は多くの箇所が人里離れたところにあるため、人々がその様子を目にす



JRTT
ニセコ鉄道建設所長
山口 真基さん